

米ヶ浜砲台跡

横須賀軍港防禦砲台

2024年3月

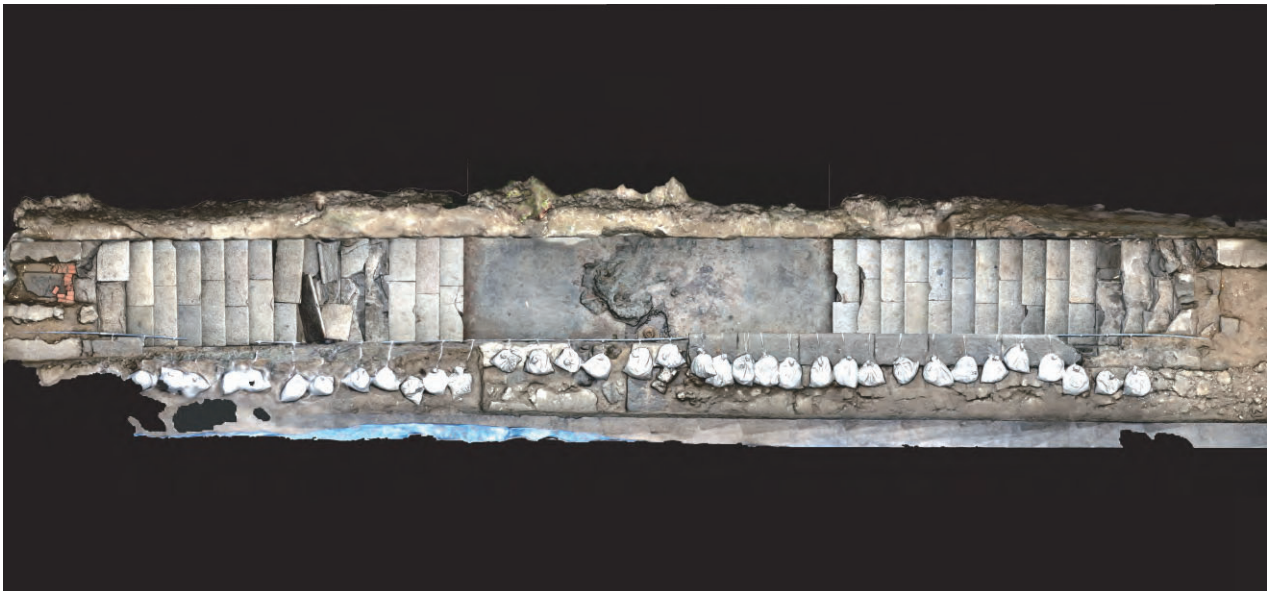
横須賀市教育委員会

(表紙説明)

米ヶ浜砲台跡・加農砲砲台砲側弾薬庫



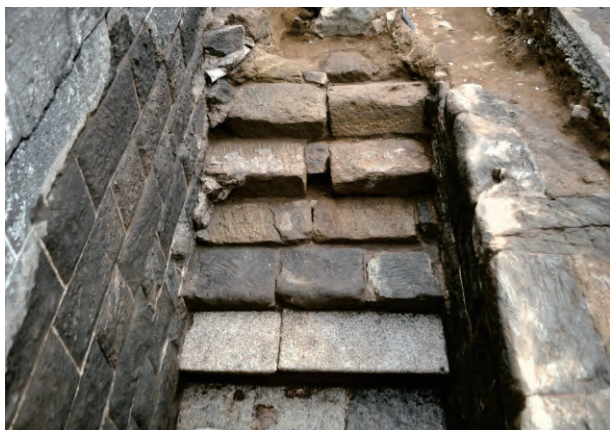
1. 加農砲砲台・砲側弾薬庫北東ブラフ積被覆壁と出入口半円アーチ



2. 加農砲砲台・塁道-砲側弾薬庫連絡階段と階下路面



3. 加農砲砲台・南西ブラフ積被覆壁と揚弾施設



1. 加農砲砲台・墨道一棲息掩蔽部連絡階段



2. 加農砲砲台・棲息掩蔽部北東被覆壁天端石組積法



3. 加農砲砲台・棲息掩蔽部外背及び排気筒



4. 加農砲砲台・棲息掩蔽部外背脚壁確認試掘坑



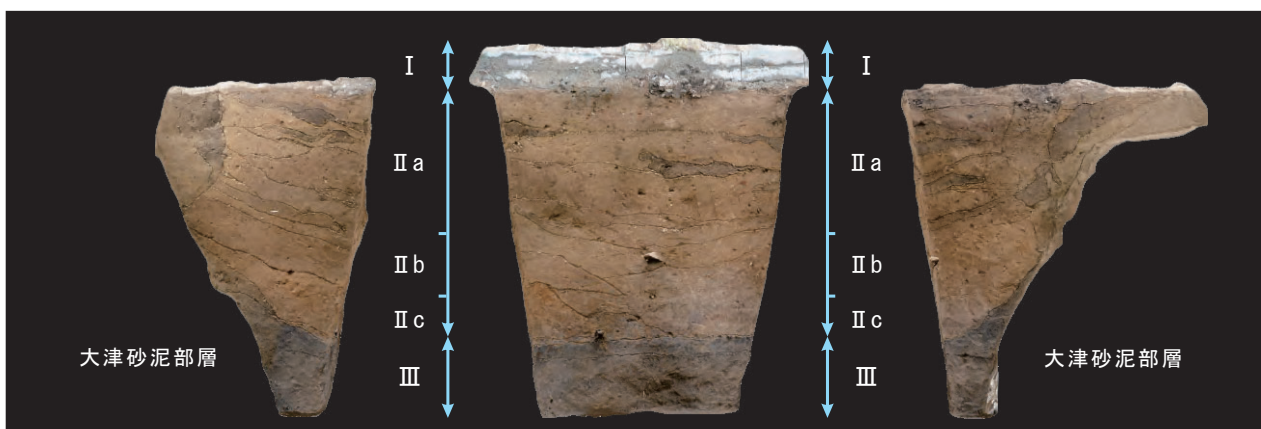
5. 加農砲砲台・棲息掩蔽部外背一脚壁移行部



1. 加農砲砲台・乾壕確認試掘坑（1次調査）



2. 加農砲砲台・乾壕内岸検出状況（1次調査）



3. 加農砲砲台・乾壕埋積土堆積状況（1次調査）



4. 加農砲砲台・乾壕確認試掘坑（2次調査）



5. 加農砲砲台・乾壕全景（2次調査）



6. 加農砲砲台・乾壕埋積土堆積状況（2次調査）



1. 榴弾砲砲台・観測所付属室及び加農砲砲台-榴弾砲砲台連絡隧道



2. 榴弾砲砲台・観測所付属室外背と伝声管



3. 榴弾砲砲台・観測所付属室後面壁



4. 加農砲砲台-榴弾砲砲台連絡隧道・煉瓦脚壁表面



5. 加農砲砲台-榴弾砲砲台連絡隧道・煉瓦脚壁裏面



6. 隧道坑口煉瓦アーチ起点脚壁組積法



7. 隧道内ヴォールト天井起点脚壁組積法

例 言

1. 本書は、神奈川県横須賀市深田台 19 に所在する東京湾要塞・米ヶ浜砲台跡の確認調査報告書である。
2. 確認調査は、横須賀市環境政策部（現建設部）公園建設課による中央公園（調査時名称、令和 3 年（2021 年）4 月 1 日、平和中央公園と改称）のリニューアル工事に伴って、横須賀市教育委員会が行った。
3. 確認調査は、下記の期間実施した。
 - 1 次調査 令和 2 年（2020 年）2 月 17 日～3 月 27 日
 - 2 次調査 令和 2 年（2020 年）8 月 18 日～8 月 26 日
 - 3 次調査 令和 2 年（2020 年）9 月 1 日～9 月 3 日
 - 4 次調査 令和 2 年（2020 年）10 月 26 日～11 月 6 日
4. 確認調査は横須賀市教育委員会生涯学習課野内秀明・磯口健太郎が担当し、土木作業・測量など支援業務は有限会社吾妻考古学研究所に委託した。
5. 確認調査及び報告書作成にあたっては、横須賀市教育委員会博物館運営課菊地勝広・青木微笑、環境政策部（現建設部）公園建設課内山一郎・富岡和昭の協力を得た。
6. 出土品の整理作業、報告書作成業務は生涯学習課文化財整理室で行い、三縄晴美が従事した。
7. 報告書の編集・執筆は、野内が行った。
8. 調査対象地における堆積層については、柴田健一郎学芸員（横須賀市自然・人文博物館地球科学担当）に現地においてご教示を得た。
9. 確認調査及び報告書作成にあたっては、次の機関・方々からご教示・ご協力をうけた。（敬称略・順不同）谷口肇（神奈川県教育委員会）、由良富士雄（防衛大学統率・戦史教育室準教授）、株式会社宇内建設、長浜つぐお、平基志、株式会社新晃産業

凡 例

1. 建築用普通煉瓦に見られた桜花章刻印の分類は、次の文献に従った。

野内秀明他 2002. 猿島遺跡群（猿島遺跡・猿島洞穴・猿島台場跡・猿島砲台跡）

－（仮称）猿島公園整備事業に伴う確認調査の記録－.

横須賀市埋蔵文化財調査報告書第9集. 横須賀市教育委員会.

単弁桜花章 a 種：花卉の上に葎と花糸と思われる図像が写実的に描かれた単弁の桜花。

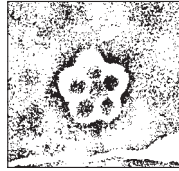
単弁桜花章 b 種：葎と花糸が省略され、先端に切り込みを持つ、膨らんだ花卉が描かれた単弁の桜花。

複弁桜花章 a 種：花卉の上に葎と花糸と思われる図像が写実的に描かれた複弁の桜花。

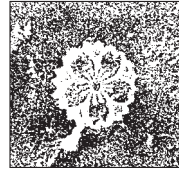
複弁桜花章 b 種：葎と花糸が省略され、先端に切り込みを持つ、膨らんだ花卉が描かれた複弁の桜花。



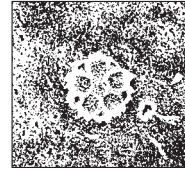
単弁桜花章 a 種



単弁桜花章 b 種



複弁桜花章 a 種



複弁桜花章 b 種

2. 本文中の防禦營造物の名称は、次の文献に従った。

小林又七 1909. 初級幹部必携問答 築城学綱要. 川流堂.

目 次

巻 頭 図 版

例 言

凡 例

第1章 米ヶ浜砲台跡の位置と周辺の関連遺跡	1
第1節 米ヶ浜砲台跡の位置と沿革	1
(1) 米ヶ浜砲台跡の位置	1
(2) 米ヶ浜砲台の建設とその後の沿革	1
第2節 米ヶ浜砲台跡周辺の関連遺跡	3
(1) 軍事都市横須賀の成立	3
(2) 陸軍諸施設の沿革概要と現状	3
第2章 調査に至る経緯と調査の経過	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査の経過	8
第3章 調査報告	10
第1節 加農砲砲台・砲側弾薬庫	10
(1) 加農砲砲台・塁道－砲側弾薬庫連絡露天交通路	10
(2) 加農砲砲台・砲側弾薬庫	13
(3) 加農砲砲台・砲側弾薬庫排気筒	17
第2節 加農砲砲台・棲息掩蔽部	18
(1) 加農砲砲台・塁道－棲息掩蔽部連絡露天交通路	18
(2) 加農砲砲台・棲息掩蔽部外背	18
第3節 加農砲砲台・乾壕	21
(1) 1次調査	21
(2) 2次調査	23
第4節 榴弾砲砲台・観測所付属室	26
第5節 加農砲砲台－榴弾砲砲台連絡隧道	29
第6節 出土遺物	31
(1) 建築用普通煉瓦	31
(2) 木札	31
(3) 排水目皿	31
第4章 まとめと今後の課題	35

第 1 章 米ヶ浜砲台跡の位置と周辺の関連遺跡

第 1 節 米ヶ浜砲台跡の位置と沿革

(1) 米ヶ浜砲台跡の位置 (第 1 図)

米ヶ浜砲台跡は横須賀新港を臨む標高 46～54m の丘陵先端に建設された沿岸砲台で、現在は都市公園として整備され、「平和中央公園」の名称で市民に開放されている。近接して横須賀市文化会館、横須賀市自然・人文博物館など文化施設が存在し、市民の憩いの場だけではなく、学びの場としても活用されている。丘陵の北西裾には京浜急行電鉄の横須賀中央駅が存在し、路線は丘陵地下に掘削された隧道を経由して、丘陵南東の崖下に沿って南伸している。丘陵裾から海岸までは明治時代以来、断続的に埋め立てられて拡大していった土地で、横須賀市役所など公共施設、学校や病院、商店街が存在する横須賀市の中心市街地が広がっている (第 1 図)。

平和中央公園からは北東約 2.2 km の海上に猿島砲台跡 (現猿島公園)、さらに遠方には第二海堡跡、第一海堡跡、房総半島が望まれる。南方には、浦賀水道最狭部の富津一観音崎海峡、観音崎砲台跡、走水低砲台跡など観音崎・走水地区堡塁団跡が遠望され、明治時代に建設された東京湾要塞の海峡防禦砲台群の立地と配置を一望することができる。北西部の沿岸地域は横須賀本港、長浦港をはさんで、在日米海軍司令部・艦船修理廠などが置かれた横須賀基地、吾妻倉庫地区、浦郷倉庫地区など横須賀米海軍施設が存在している。横須賀本港と長浦港は旧横須賀軍港で、明治 20 年代前半に東京湾要塞に包括された軍港防禦砲台群が両港の湾口部に建設され、北端防禦は夏島砲台、そして米ヶ浜砲台は軍港南端の防御を任務としていた。

(2) 米ヶ浜砲台の建設とその後の沿革

横須賀鎮守府・横須賀海軍工廠が置かれた横須賀・長浦両軍港の防御を目的とした「横須賀軍港防禦法要領」が明治 21 年 (1888 年) に策定され、同年 8 月 14 日に長浦港北岸の沖に浮かぶ夏島砲台の建設工事が起工し、順次、笹山砲台、箱崎高砲台、箱崎低砲台、波島砲台、米ヶ浜砲台の 6 砲台が建設された。一連の砲台建設工事で最後に着工された米ヶ浜砲台は 28 cm 榴弾砲 6 門砲台と 24 cm 加農砲 2 門砲台から構成され、榴弾砲砲台の建設工事は明治 23 年 (1890 年) 4 月 21 日起工、明治 24 年 (1891 年) 5 月 31 日竣工、加農砲砲台は明治 24 年 (1891 年) 3 月 11 日起工、同年 10 月 20 日竣工した (第 2 図)。竣工後、米ヶ浜砲台は東京湾要塞砲兵連隊が所管し、同連隊の教育・訓練用の演習砲台として使用された。その後、明治 32 年 (1899 年) に第一演習砲台 (田戸演習砲台) (24 cm 加農砲 4 門砲台)、第二演習砲台 (深田演習砲台) (28 cm 榴弾砲 8 門砲台) が建設されたため、米ヶ浜砲台は演習砲台の指定が解除されたが、大正 2 年 (1913 年) 2 月 24 日に要塞整理事業によって軍港防禦砲台としての廃止が通知された。

大正 12 年 (1923 年) 9 月 1 日に関東大震災が発生し、第一・第二両演習砲台は大きな被害を受け、廃止・改修・移築の措置が取られた。第一演習砲台の加農砲 4 門は第二演習砲台に移築、第一演習砲台は廃止、榴弾砲 8 門は震災により焼失した築城部横須賀支部跡地に 4 門、要塞整理事業によって廃止予定だった米ヶ浜砲台を改築、4 門が移築された。これら震災復興事業を経て、大正 12 年 (1923 年) 12 月 6 日に東京湾要塞・米ヶ浜砲台は正式に廃止、附属補助建築物は除籍され、以後、横須賀重砲兵連隊の演習砲台として使用された。

敗戦後、国有財産であった米ヶ浜演習砲台跡地は連合国軍によって接收されたが、昭和 22 年 (1947 年) に横須賀児童遊園地協会準備委員会が組織され、翌昭和 23 年 (1948 年) に米海軍横須賀基地司令官デッカー大佐の旧軍用地転用許可によって児童遊園地の建設が着工された。児童遊園地は展望台、ローラースケート場などいくつかの施設が完成したが、資金不足で開園には至らなかった。その後、跡地は旧軍港市転換法の特別措置に基づき、昭和 45 年 (1970 年) 4 月 1 日に中央公園として開園、令和 2 年度 (2020 年度) に再整備工事が行われ、翌令和 3 年 (2021 年) 4 月 1 日に平和中央公園と改称された。



第2節 米ヶ浜砲台跡周辺の関連遺跡

(1) 軍事都市横須賀の成立(第2図)

明治20年代には横須賀軍港防禦砲台群の建設と併行して、米ヶ浜砲台の存在する丘陵の西方内陸部、豊島村中里・不入斗・坂本の近接した土地に陸軍の東京湾要塞関連施設が集中して移転・新設された。

米ヶ浜砲台から約800m西方に東京湾要塞司令部、隣接して東京湾要塞砲兵連隊営、その南方に不入斗陸軍練兵場・不入斗陸軍射的場、北方には横須賀衛戍病院(横須賀陸軍病院)、また、米ヶ浜砲台の南側丘陵先端には東京湾要塞砲兵連隊の演習砲台として第一演習砲台(田戸演習砲台)、第二演習砲台(深田演習砲台)が建設され、米ヶ浜砲台と第二演習砲台間の土地には築城部横須賀支部が開設された。

これらの陸軍諸施設は幹線軍道で連絡し、横須賀市東南部の丘陵地の一角に陸軍の中核地が出現した。既に明治10年代に丘陵下の海浜部に建設されていた横須賀鎮守府・海軍工廠など海軍の中核施設と併せて、陸海軍の軍事都市横須賀の原型が出来上がっていった。

(2) 陸軍諸施設の沿革概要と現状(第3図)

〔東京湾要塞砲兵連隊営跡〕

明治8年(1875年)に浦賀町築地新町に海軍・浦賀屯営の前身、浦賀水兵屯集所が開設、明治22年(1889年)に海兵団が逸見村に創設されると浦賀屯営は廃止された。その跡地は陸軍省に所管換えされ、千葉県市川市国府台から要塞砲兵幹部練習所が移転してきた。翌明治23年(1890年)5月に要塞砲兵第一連隊が編成され、要塞砲兵幹部練習所内に駐屯し、明治24年(1891年)11月に豊島村不入斗村に新たな兵舎が完成し、移転した。

現在は、横須賀市立桜小学校・不入斗中学校・坂本中学校の校地となっている。

〔東京湾要塞司令部跡〕

明治28年(1895年)4月、要塞砲兵第一連隊営に隣接する豊島村中里に東京湾要塞司令部が開設した。翌明治29年(1896年)5月に要塞砲兵第一連隊は東京湾要塞砲兵連隊と改称、その後東京湾要塞砲兵連隊は何度かの組織替・改称を経て、大正9年(1920年)12月に横須賀重砲兵連隊と改称された。敗戦直後の昭和20年(1945年)9月に復員兵収容のため東京湾要塞司令部庁舎は横須賀陸軍病院の中里分院に転用、国立横須賀病院と改称された。平成14年(2002年)に国立横須賀病院の廃止に伴い、横須賀市立うわまち病院として開院、現在に至っている。

〔不入斗陸軍練兵場跡・不入斗陸軍射的場跡〕

東京湾要塞司令部開設翌年の明治29年(1896年)から明治35年(1902年)にかけて、陸軍は隣接する民有地を買収、東京湾要塞砲兵連隊の練兵場と射的場を整備していった。練兵場と射的場は堅野原山砲台をはさんで隣接していたが、現在、堅野原山は削平され、練兵場跡と射的場跡は陸上競技場・軟式野球場他、体育館など総合運動施設を備えた不入斗公園として市民に利用されている。

〔横須賀衛戍病院跡(横須賀陸軍病院跡)〕

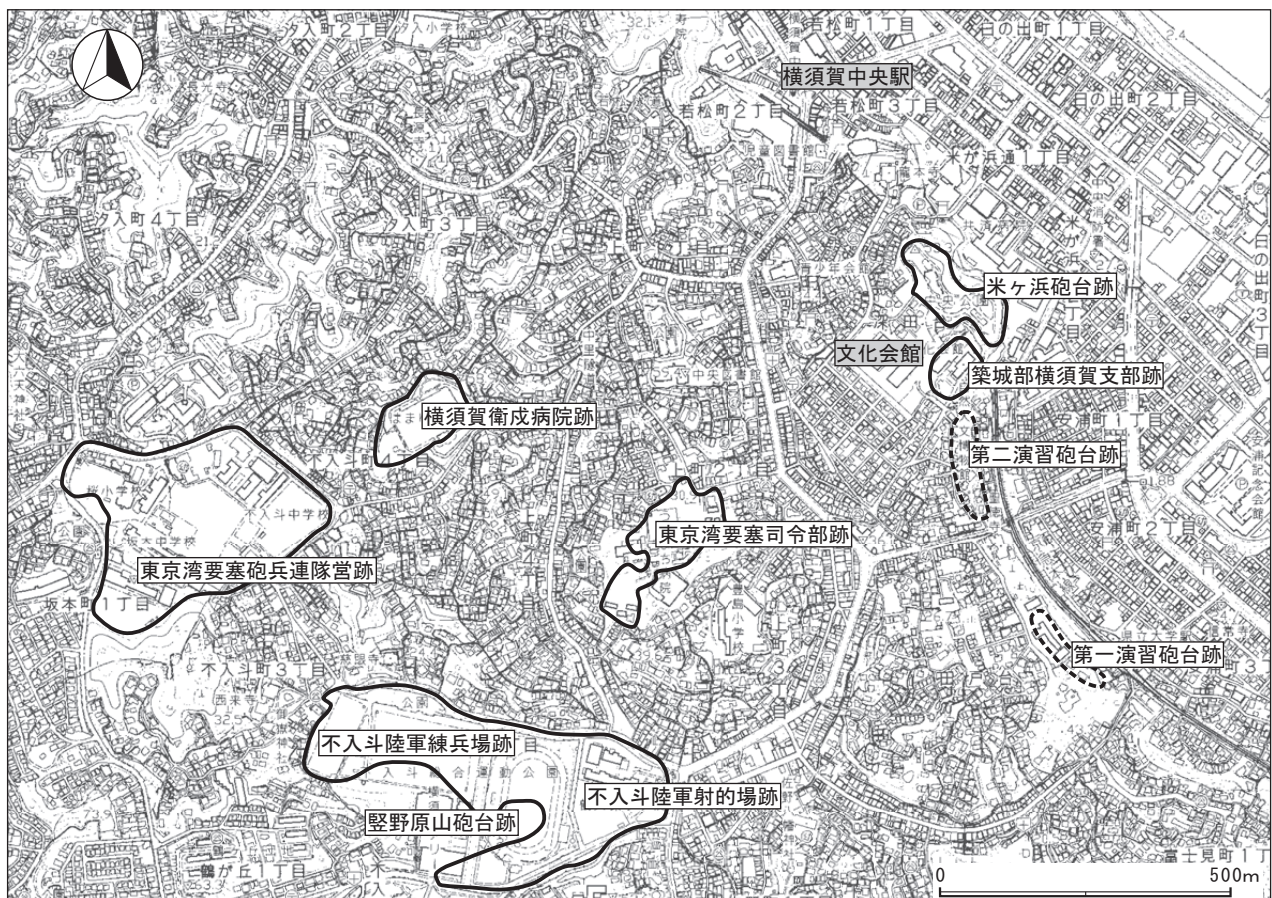
横須賀陸軍病院の前身は明治24年(1891年)に浦賀町の要塞幹部練習所に駐屯していた要塞砲兵第一連隊内に開院した横須賀衛戍病院で、同年、要塞砲兵第一連隊とともに豊島村不入斗に移転した。明治25年(1892年)に要塞砲兵第一連隊営から豊島村中里に移転し、昭和11年(1936年)に、横須賀陸軍病院と改称された。現在、跡地ははまゆう公園として市民に開放されている。

〔第一演習砲台(田戸演習砲台)・第二演習砲台(深田演習砲台)〕

明治32年(1899年)に建設された第一演習砲台・第二演習砲台は、関東大震災で大きな被害を受けた。戦後、第一演習砲台跡には横浜地方裁判所及び横浜地方検察庁横須賀支部が建設され、第二演習砲台跡は民有地として宅地化されたが、一部に昭和4年(1929年)に建設された八八式海岸射撃具台座などが残されていた(野内2009)。



第2図 明治30年代の米ヶ浜砲台と陸軍施設（明治27年測量明治36年修正明治41年製版東京湾要塞近傍11・12号）



第3図 米ヶ浜砲台跡と周辺の関連遺跡（平成28年作成横須賀市街図）